慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	CSP - CFP関係の視点と手法
Sub Title	Perspectives and Methods of CSP-CFP relationship
Author	岡本, 大輔(Okamoto, Daisuke)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	2003年は日本のCSR元年と言われている。CSRの認知度は大きく向上し, それを知らない経営者・ビジネスマンはいなくなったのではないだろうか。大学の授業でもCSRを取り上げる機会が格段に増えている。しかし, CSRとは何であろうか？ CSRはCorporate Social Responsibilityの頭文字なので, 企業の社会的責任だ, と言えば確かに正解と言える。しかし, 企業は自らの社会的責任を考えた時, どの様に行動すれば良いのであろうか。どの様に責任を果たせば良いのであろうか。それは企業にとってプラスなのであろうか。そもそも企業の社会的責任の責任とCSRの責任は同じなのであろうか。 これらの問いに答えることは簡単ではない。経営者の方に伺っても, 現場のビジネスマンに伺っても, そして学者仲間に聞いても, いろいろな答えが返ってくる。社会的責任, CSR, 戦略的CSR, CSV, そして三方よしなど, 類似概念がたくさんあって, 非常に難しいことになっている。それぞれの言葉が生み出された時代背景, タイミング, 意義, 捉え方がバラバラで, しかも確固たる定義があるわけではないものも多い。 本書ではこれらをひとつひとつ取り上げ, 時代背景と意義を確認し, さらにお互いの関係を考え, 企業が社会と向き合う際, どのような関係を築いていくべきかを考えるヒントを提供してみたいと思っている。そこでそれを歴史的に, 理論的に, 実証的に検証していく。最後の実証では, CSP-CFP関係(Corporate Social Performance vs. Corporate Financial Performance)と言われる企業の社会的行動の成果が企業の財務業績にいかなる効果をもたらすかに関する, 筆者の20年にわたる実証分析結果を示し, これがどの程度のプラスの貢献となっているかを確認している。 【拙著『社会的責任とＣＳＲは違う！』(千倉書房, 2018予定)の紹介文より】 The concept of CSR (Corporate Social Responsibility) has been widely investigated, however, there are many kinds of understandings and a generally accepted definition does not yet exist. In this study, several notions concerning corporate social responsibility, such as CSR, CSV, Strategic CSR, and Japanese-Sanpo-Yoshi are discussed historically, theoretically, and empirically. Finally, CSP-CFP relationship (Corporate Social Performance vs. Corporate Financial Performance) is analyzed, using 20-year follow-up survey data, and the extent of positive relationship is empirically confirmed.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170017

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2017年12月12日

研究代表者	所属	商学部	職名	教授	補助額	500 （特B）千円
	氏名	岡本 大輔	氏名（英語）	Daisuke Okamoto		

研究課題（日本語）

CSP－CFP関係の視点と手法

研究課題（英訳）

Perspectives and Methods of CSP-CFP relationship

１．研究成果実績の概要

2003年は日本のCSR元年と言われている。CSRの認知度は大きく向上し、それを知らない経営者・ビジネスマンはいなくなったのではないだろうか。大学の授業でもCSRを取り上げる機会が格段に増えている。しかし、CSRとは何であろうか？

CSRはCorporate Social Responsibilityの頭文字なので、企業の社会的責任だ、と言えば確かに正解と言える。しかし、企業は自らの社会的責任を考えた時、どの様に行動すれば良いのであろうか。どの様に責任を果たせば良いのであろうか。それは企業にとってプラスなのであろうか。そもそも企業の社会的責任の責任とCSRの責任は同じなのであろうか。

これらの問いに答えることは簡単ではない。経営者の方に伺っても、現場のビジネスマンに伺っても、そして学者仲間に聞いても、いろいろな答えが返ってくる。社会的責任、CSR、戦略的CSR、CSV、そして三方よしなど、類似概念がたくさんあって、非常に難しいことになっている。それぞれの言葉が生み出された時代背景、タイミング、意義、捉え方がバラバラで、しかも確固たる定義があるわけではないものも多い。

本書ではこれらをひとつひとつ取り上げ、時代背景と意義を確認し、さらにお互いの関係を考え、企業が社会と向き合う際、どのような関係を築いていくべきかを考えるヒントを提供してみたいと思っている。そこでそれを歴史的に、理論的に、実証的に検証していく。最後の実証では、CSP-CFP関係（Corporate Social Performance vs. Corporate Financial Performance）と言われる企業の社会的行動の成果が企業の財務業績にいかなる効果をもたらすかに関する、筆者の20年にわたる実証分析結果を示し、これがどの程度のプラスの貢献となっているかを確認している。

【拙著『社会的責任とCSRは違う！』（千倉書房、2018予定）の紹介文より】

２．研究成果実績の概要（英訳）

The concept of CSR (Corporate Social Responsibility) has been widely investigated, however, there are many kinds of understandings and a generally accepted definition does not yet exist.

In this study, several notions concerning corporate social responsibility, such as CSR, CSV, Strategic CSR, and Japanese-Sanpo-Yoshi are discussed historically, theoretically, and empirically.

Finally, CSP-CFP relationship (Corporate Social Performance vs. Corporate Financial Performance) is analyzed, using 20-year follow-up survey data, and the extent of positive relationship is empirically confirmed.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
岡本大輔	社会的責任とCSRは違う！	千倉書房	2018